研　究　結　果　報　告　書

日本語母語話者による「行為要求の『取り消し』及びその返答」と「行為要求及びその返答」をめぐる双方向の談話研究

所属：揚州大学　外国語学部　日本語学科
役職：准教授
氏名：孫　楊

１．研究の目的

私は長年にわたり、中国の日本語教育現場に携わってきた。日本語の行為要求に対する解説は教科書に限度があること、また、在中中国人日本語学習者(以下、在中学習者と呼ぶ)による日本語行為要求のストラテジーは日本語母語話者と異なることが気づいた。そこで、本研究は、在中学習者に日本語母語話者に近づく自然な行為要求ストラテジーをしてほしいため、まず、日本語母語話者を調査の対象者とし、設定したロールプレイの場面に応じて、どのような行為要求のストラテジーを用いるかを調査の目的とした。具体的に、相手にとって、日本語母語話者が「依頼の取り消し」「勧誘」「勧め」といった行為要求談話を行う際のストラテジーは、どのような様相や流れとなっているのか。また、そのストラテジーの選択は、社会的な力(P)、社会的距離(D)、負担の度合い(R)に基づくか否か、を明らかにする。

２．研究のための活動内容

研究のため、以下のことをした。①東京にある明星大学の先生研究室と山梨県大月市立大月短期大学の先生の研究室を訪問した。先生方のゼミ生にアンケート調査の協力をしてもらい、主に音声データの収集をした。②2019 年、九州大学総合地球科学研究府によって主催され「国境を越える日本教育学未来のアジアにおける日本語教育の発展にむけて」という国際シンポジウム参加のため、九州大学を訪問し、総合地球科学研究府の先生方に直接に指導と励ましをいただいた。学会の合間、音声データの収集も行った。③2019 年 9 月と 11 月に蘇州大学と杭州師範大学で行われた国際シンポジウムに参加し、研究発表をした。また、第２言語習得と社会言語学分野の専門家の先生方と意見交換した。

３．研究を通じて発見したこと

本研究では、日本語母語話者を調査対象者として、『行為要求の「取り消し」及びその返答』と『行為要求及びその返答』を内容としたアンケート調査を行った。調査の結果より、特に『行為要求の「取り消し」を行う際「あのう」「すみませんが」「～のけんですが」などの〈前置き〉表現、｛理由説明｝｛願望表示｝｛代案の疑問表現｝などの〈間接行為要求〉表現、｛詫び表現｝｛詫び＋感謝｝などの〈終結〉表現を用いる傾向がある。一方、相手は話し手の行為要求に対し、｛相づち｝｛理解｝｛許し｝などを用い『承諾』行為をする傾向が見られた。他に、依頼、勧誘、勧めなどの行為要求においても、話し手は間接的な行為要求を用い、相手へのフェイス侵害を軽減しようとする傾向がある。本研究で得られた知見は、中国人日本語学習者の行為要求談話習得研究に重要な一環だと考えられる。さらに、中国で行われる日本語教育現場の教室指導に実践的な意義があり、中国人日本語学習者の質の高い異文化交流を促進するものだと思わる。

４．研究を通じて見えた今後の課題

今回、質の高い教室指導と自然な日本語行為要求談話を適切に指導するストラテジーを明らかにするため、中国人日本語学習者(在日と在中に分ける)をも対象に、「行為要求とその返答」、特に、「行為要求の取り消しとその返答」を調査する必要がある。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表　（題名・発表者名・会議名・日時・場所等） 1.孫楊(2019)「日本語の「クッションことば」を教授するストラテジー」，跨文化交际与汉日对比高端论坛，2019 年 9 月 20 日-22 日，苏州大学 2.孫楊(2019)「中国人日本語学習者による「緊急依頼」発話のストラテジー「―日本語母語話者との比較の観点から―」，中国日语教学研究会，2019 年年会，杭州师范大学 3.孫楊(2019)「依頼に対する「取り消し」行為のストラテジーについて―日本語母語話者と中国人日本語学習者による調査に基づいて 」，国境を越える日本語教育学　未来のアジアにおける日本語教育の発展にむけて，2019 年 11 月 19 日九州大学総合地球科学研究府，日本、福岡
論文　（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）
書籍　（題名・著者名・出版社・発行時期等）